

発行 くまもとアートポリス事務局  
熊本県土木部建築住宅局建築課内

〒862-8570 熊本市中央区水前寺6-18-1  
TEL.096-333-2537 FAX.096-384-9820  
e-mail kenchiku@pref.kumamoto.lg.jp



発行者:熊本県  
所属:建築課  
発行年度:令和3年度  
(2021年度)

CONTENTS

くまもとアートポリス建築展 2021

みんなの家シンポジウム みんなの家って何だろう  
くまもとアートポリス巡回展 東京ー熊本ー仙台

熊本地震「みんなの家」利活用プロジェクト  
KASEIプロジェクト

くまもとアートポリスプロジェクト

被災した公民館を再建する「みんなの家」  
立田山憩の森・お祭り広場公衆トイレ  
株式会社エバーフィールド木材加工場  
湯浦地区地域優良賃貸住宅  
南阿蘇鉄道高森駅周辺再開発  
熊本地震震災ミュージアムワークショップ

# みんなの家シンポジウム みんなの家って何だろう

—— 熊本と東北を 結んで ——

「みんなの家」から導き出される公共建築のポテンシャル。

2011年の東日本大震災をきっかけにはじまった「みんなの家」は、東日本の被災地では16棟、熊本地震の被災地では100棟余りがつくられ、被災地域のコミュニティの場として利用されてきた。東日本大震災から10年、そして熊本地震から5年が過ぎた今、これまでの活動と今後の課題を含め、「みんなの家」はどのような可能性を持っているのか。熊本と東北をオンラインで結び、7会場、20名のパネリスト参加のもと、シンポジウムを開催した。

## 第一部 「みんなの家って何だろう」

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、熊本会場は無観客となったが、オンラインも含め500名以上が参加し開催された。曾我部氏の司会進行のもと、熊本会場、東北会場をオンラインで結び、「みんなの家って何だろう」という大きな問いに、「みんなの家」を設計した建築家たちが議論を交わした。東北、熊本におけるみんなの家の活用、プロジェクトを重ねるごとに課題を解決し、変化していく人と建築との関わりなど、事例をもとにそれぞれの立場に基づいた考えを披露した。「当事者意識」「普請」「居場所の実現」など、今後の公共建築のヒントとなり得る印象的な言葉が飛び交い、あっという間の120分間だった。くまもとアートポリスコミッショナーであり、NPO法人HOME-FOR-ALL理事でもある伊東氏は、「みんなの家を自分の家の延長として考えられるかどうか、今後の発展を語る上で大きな意味を持っている」と第一部の最後を締めくくった。



### 熊本会場 ホテル熊本テルサ

桂 英昭、末廣 香織、曾我部 昌史、塚本 由晴、岡野 道子

### 益城町 木山のみんなの家

内田 文雄、西山 英夫



### 大津町 高尾野のみんなの家

千葉 学



### 西原村 袴野集会所

山室 昌敬



### 東北会場 せんだいメディアテーク

伊東 豊雄、山本 理顕、妹島 和世、柳澤 潤、近藤 哲雄、大西 麻貴、百田 有希

### 相馬こどものみんなの家

アストリッド・クライン、マーク・ダイサム、久山 幸成



### 新浜のみんなの家

古林 豊彦



## 第二部

### 熊本会場 「みんなで語ろう! 熊本みんなの家ネットワーク」 東北会場 「新しいみんなの家をつくろう」

第二部は、熊本会場、東北会場それぞれの会場で、個別テーマについてディスカッションが行われた。熊本会場では「みんなで語ろう! みんなの家ネットワーク」をテーマに、第一部のテーマとして語られた公共建築、当事者意識をもつてつくられる「みんなの家」が果たす役割について議論が交わされた。建築物である「みんなの家」のあり方が、現代社会の構造を考えるきっかけになっていることが浮き彫りとなり、近代化による効率化と、地域のコミュニティとしての人のつながりの関係性を考えるきっかけとなった。東北会場のテーマは「これからのみんなの家」。会場からの質疑をきっかけに、建築の作品性、みんなの家の形、その時の状況や場所に合わせた使う人が愛着や誇りを持てる建築のつくり方の議論が交わされた。また、山本氏はみんなで考え、みんなで決める「みんなの家」は真の意味で公共建築であり、この活動を持続的に続けていきたいと語った。シンポジウム第一部の司会進行を務めた曾我部氏は、「新しい公共建築が持っている可能性について、議論で深められた」と振り返り、くまもとアートポリスのプロジェクトがもたらす、これからの公共建築への良い影響について期待を語った。



CHECK!  
シンポジウムの映像を  
アーカイブ配信中



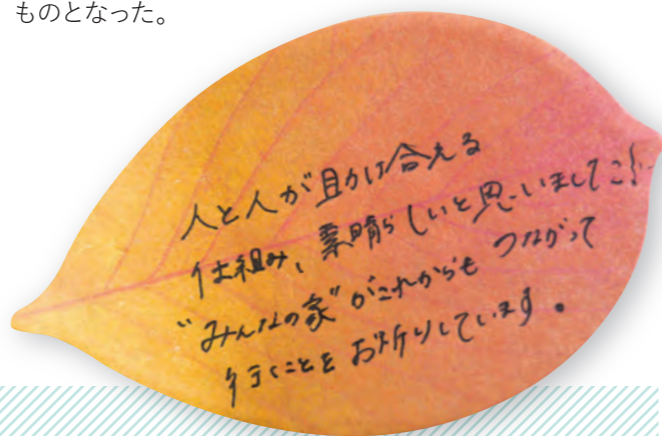
# くまもとアートポリス 巡回展

## —— みんなの家、後世へつなぐ復興 ——

「みんなの家」のこれまでとこれから。  
自然災害からの復興のあり方を考える。

くまもとアートポリスの取り組みを、国内外に発信するために4年に1度開催している「くまもとアートポリス建築展」。本年度は、「自然災害が頻発する社会をどう生きるか」をテーマに展覧会、シンポジウムを計画した。そのひとつとして、東日本大震災をきっかけにスタートした「みんなの家」のプロジェクトを中心に、人と人とのつながりを大切にきた復興を進めてきたこれまでの取り組みを振り返り、熊本地震、令和2年7月豪雨と熊本県を襲った災害から立ち上がる熊本の姿を全国に発信する展覧会を開催。「み

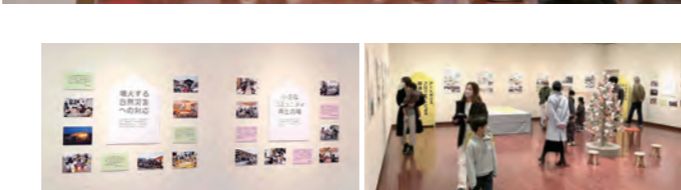
んなの家」のたどってきた時間を写真パネルや映像で振り返り、これまで担ってきた、そしてこれから担う役割について想像し、自然災害からの復興について、みんなで考える巡回展となった。東京メトロ銀座駅からスタートした巡回展は、熊本、そして仙台と人と場所をつなぎながら意義あるものとなった。



### 熊本会場

2021.11.3 WED → 2022.1.16 SUN

熊本市現代美術館 井手宣通記念ギャラリー、ギャラリーⅢ



熊本会場では、「みんなの家」が発案された東日本大震災から、熊本地震、豪雨災害において120棟以上整備された「みんなの家」につながる歴史やストーリーをパネルで紹介。くまもとアートポリス事業の一環として取り組んできた「みんなの家」の背景を知ること、自然災害からの復興のあり方を再確認する機会となった。参加型展示「みんなのエアールツリー」には500近いメッセージが寄せられた。

### 東京会場

2021.10.22 FRI → 10.28 THU

東京メトロ銀座駅 B2出入口付近 ふるさとPRイベントスペース



当初は、仙台、東京、熊本と巡回する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により仙台会場が延期となり、東京会場からのスタートとなった。東京会場では、東京メトロ銀座駅構内のイベントスペースという、非常に人通りが多い場所で展示を行った。新型コロナウイルス感染症対策のため、展示物を壁面パネル10枚のみに限定し、くまもとアートポリスの取り組みを伝えた。

### 仙台会場

2022.1.23 SUN → 1.26 WED

せんだいメディアテーク 1階オープンスクエア



熊本から「みんなの家」を提供し、第1号の「みんなの家」が整備された地である仙台で展示を行った。会場は、せんだいメディアテークの1階オープンスクエア。人通りが多く、オープンで広い空間を生かして、パネルや模型をサークル状に配置した。また、初日は「みんなの家シンポジウム」と連携して開催し、シンポジウムに合わせた展示を行った。

### 2021.11.27 SAT 展覧会企画トークイベント

## これからの公共建築、 災害時のアートインフラを考える

開催場所 | 熊本市現代美術館(ホームギャラリー)  
出演 | 日比野克彦(熊本市現代美術館 館長)  
曾我部昌史(くまもとアートポリスアドバイザー)

人と人のつながり、気持ちと気持ちの交換。  
そこには、必ずアートの存在がある。

2021年6月に熊本市現代美術館の館長に就任した日比野氏と、くまもとアートポリスアドバイザーである曾我部氏とのトークイベントを、巡回展開催中の熊本会場にて開催。これからの公共建築と災害時のアートの役割をテーマに、1時間のトークが繰り広げられた。会場には事前に申し込みのあった参加者が訪れ、トークイベントの様子は動画でも生配信された。釜石にある「みんなの家」でワークショップを開催した経験を持つ日比野氏は、「このプロジェクトの魅力は「みんなの家」という言葉。場所や立地、あり方すべての意味を含んでいて、懐の深さを感じる」とコメント。曾我部氏は「他者との違いを前提に暮らしていくことを含めてアート。その場を作るという意味での公共建築がこの先のありようだ」と語った。



#### 参加者 Comment



10年前に夫婦で熊本に移住し、安心して子育てできる環境だと実感しています。今回のトークイベントの中で「時が止まった心が動き出す瞬間が、アートインフラとしてできる大きな仕事」という日比野さんの言葉が、とても胸に落ちました。  
(横山 輝智香さん・優風さん)



大学の研究室にあったポスターを見て、今回のトークイベントに参加。アートポリスのことは知っていたが、今回のイベントで「みんなの家」の取り組みを初めて知った。公共建築のことを知ることが、これからの自分の学びに活かしていきたい。  
(河野 辰悟さん・宝満 輝さん)

みんなでかんがえ、みんなでつくる

# 被災した公民館を再建する「みんなの家」

## 西原村 大切畑のみんなの家

消防車庫と合築することに特徴のある計画。消防車庫と広間の間に軒下をトンネル状に作り、どちらからも使える場にした。風景を印象的に切り取ると同時に、消防隊の休憩場所になったりと、多彩な使い方ができる計画。

延べ面積：132.46㎡(消防詰所を含む)  
 設計者：千葉学/千葉学建築計画事務所  
 施工者：有限会社ウエダホーム  
 完成時期：2021年3月



熊本地震で被災した公民館の再建を「日本財団わがまち基金」を活用し、地区住民、設計者、施工者、市町村、様々な協力者とともに、みんなでかんがえ、みんなでつくる「みんなの家」プロジェクトとして行った。今回完成した4棟を含め、10地区全ての整備が完了。

公民館型みんなの家の概要  
 設計者：千葉学/千葉学建築計画事務所  
 塚本由晴+貝島桃代+玉井洋一/アトリエ・ワン  
 事業主体：一般財団法人熊本県建築住宅センター  
 協働事業者・資金助成：日本財団  
 事業協力：一般社団法人KKN熊本工務店ネットワーク  
 協力者：藤森泰司アトリエ、カリモク家具、八代東ロータリークラブ、田島ルーフィング、大光電気、安東陽子デザイン、アイカ工業、DURAVIT、GROHE、KASEIプロジェクト

## 大津町 上揚のみんなの家

阿蘇外輪山の山裾と白川に挟まれ、中央を県道145号が走る線状集落にある。道路より一段低い敷地であったため、歩行者や電動カート利用者に配慮し、道路と軒下空間をブリッジでつないだ。障子があり落ち着いた雰囲気のある広間からは背後に広がる田園地帯が見える。みんなの家と既存倉庫との間には、熊本城の破損瓦を再利用した通路を整備した。

延べ面積：36.43㎡  
 設計者：塚本由晴+貝島桃代+玉井洋一  
 /アトリエ・ワン  
 施工者：株式会社小川工務店  
 完成時期：2021年3月



## 西原村 風当のみんなの家

俵山の西にある大峯の山裾の斜面集落で、高台から平野が見渡せる眺望の良い公園に面している。また、集落は県道28号沿いにあり交通の便が良いことから子育て世代の家族が多い。みんなの家には彼らの要望であった広間と一体的に使えるキッチンや公園利用者が使える屋外トイレを整備した。

延べ面積：59.60㎡(増床分を含む)  
 設計者：塚本由晴+貝島桃代+玉井洋一  
 /アトリエ・ワン  
 施工者：宮田建設株式会社  
 完成時期：2021年3月



## 西原村 下小森のみんなの家

消防詰所との合築が求められた。道路側にポンプ車庫と消防詰所、公園側にみんなの家を配置し、両方から使える軒下空間を挟んで南側の広場に対して「への字」になるように連結した。公園は保育園の散歩道にもなることから、道路から公園まで軒下を歩けるようにするとともに、軒下空間には屋外トイレや手洗い場を設けた。

延べ面積：149.10㎡(消防詰所を含む)  
 設計者：塚本由晴+貝島桃代+玉井洋一  
 /アトリエ・ワン  
 施工者：宮田建設株式会社  
 完成時期：2021年4月





# 「みんなの家」を新たなコミュニティ形成の場に 熊本地震「みんなの家」利活用

# プロジェクト

アートポリス事業の一環として、熊本地震の際、仮設住宅団地内に84棟整備された「みんなの家」。仮設団地の閉鎖に伴い、この「みんなの家」を新たなコミュニティ形成の場や地域づくりの拠点として、移築等により利活用する取組みが進んでいる。廃材を家具制作などに活用した4棟を含めて、84棟すべてが活用される予定。

## 被災した公民館の再建

「みんなの家」を移築活用して被災した地区の公民館を再建し、地域のコミュニティの核となる場所を再生した。



袴野集会所 [西原村]



田中公民館 [益城町]



星田公民館 [西原村]



府領公民館 [甲佐町]



日向みんなの家 [西原村]



茶屋の本公民館 [御船町]

## 新たな防災施設の整備

防災教育を行ったり、災害時に避難所としても活用できるコミュニティ施設や、防災拠点における防災備蓄倉庫として活用された。



風当防災コミュニティ施設 [西原村]



宮内防災センター [甲佐町]



古閑防災コミュニティ施設 [西原村]



防災備蓄倉庫 [南阿蘇村]

## 地域の新たな集会施設

集会施設のなかった地域や、災害公営住宅の建設などで新しい地域のコミュニティが生まれた場所において、交流の拠点となる新たな集会施設として活用された。



北早川公民館 [甲佐町]



下砥川公民館 [益城町]



ふれあい広場集会所 [大津町]



市ノ後団地公民館 [益城町]



岩坂地区集会所 [大津町]



田原地区集会所 [益城町]



緑が丘公民館 [西原村]



寺迫公民館 [益城町]



浄光寺公民館 [御船町]



平田柳水集会所 [益城町]



牛ヶ瀬第2地区みんなの家 [御船町]



内寺安心館 [益城町]

## 新たな交流・にぎわい拠点の創出

熊本地震からの創造的復興を目指して、地域の新たな交流センターや、観光の拠点となる施設、にぎわいを創出するため施設、震災の記憶を伝えるための施設などとして活用された。



ふれあい広場交流センター [御船町]



新阿蘇大橋展望所 [南阿蘇村]



情報交流センター  
体験学習施設 [益城町]



湖井公園  
震災遺構ガイダンス施設 [益城町]



にぎわい拠点  
シェアオフィス [益城町]



にぎわい拠点  
コワーキングオフィス [益城町]

## 子育て支援や教育関係施設の整備

被災された方の生活再建の支援として、保育所や学童保育などの子育て支援施設や、学校内での交流施設として活用された。



菊陽南小学校放課後児童クラブ  
[菊陽町]



七滝中央小学校放課後児童クラブ  
[御船町]



益城中央小学校放課後児童クラブ  
[益城町]



嘉島東小学校放課後児童クラブ  
[嘉島町]



嘉島中学校コミュニティ施設  
[嘉島町]



久木野放課後児童クラブ  
[南阿蘇村]



つどいの広場サンサン [宇土市]



阿蘇医療センター保育施設 [阿蘇市]

## 完成イベント つどいの広場サンサン [宇土市]



宇土市の子育て支援施設「つどいの広場サンサン」では完成にあわせて、施設を利用される親子の参加によるワークショップが開催され、熊本県立大学佐藤研究室の協力により、6脚の幼児用椅子を製作した。椅子には宇土市の市花であるアジサイがデザインされ、座面以外の木材は仮設住宅の廃材が活用されている。参加された子どもたちは初めて見る電動工具の音に驚きながらも、楽しそうに作業していた。



CHECK!  
椅子の製作  
ワークショップの  
動画公開中



# 立田山憩の森・お祭り広場公衆トイレ



立田山憩の森・お祭り広場公衆トイレは、熊本市の中心地から東北に位置し、多くの県民の健康づくりやふれあいの場として活用されている標高152mの立田山に完成した。

公衆トイレは、森・芝生広場・散策路・駐車場等、自然と人の活動の接点となる場に位置しており、どの方向からも立ち寄りやすい円環状の庇空間を基本に、庇下にトイレブース、休憩スペース、洗面スペース等を配置し、立田山での自然体験をサポートする場を生み出したいと考えた。

また、1本1本異なる表情を持つ原木から樹皮を剥いだだけの丸太を組み合わせたレシプロカル構造の架構がこの建築と自然との関係を深めている。外壁には、製材の残材として発生する

背板を使用した焼杉材を用いた。通常、チップ等の安価な用途に向けられることが多い背板を、丸太の表面を活かした新たな材料として用いることで、その価値の見直しを図った。

## 設計者 Comment

立田山を訪れる方々の活動を温かくサポートするトイレを目指し、休憩スペースを併設した、周囲の自然に溶けこむ建物を設計しました。建物は、径が細い熊本県産の丸太をそのまま構造材に使っています。通常は建物に使われない細い丸太を使うことで、森林資源の有効活用と環境負荷の低減を図りました。

柱の一部(変わった形の柱)や、中庭の黒い焼杉は、九州地方に在住の大学生方とのワークショップで一緒に作り、人の手の温もりが感じられる温かい雰囲気になりました。

このトイレを訪れる方々に、木でできた空間の気持ちよさや魅力を感じていただくと幸いです。



WS  
2021.10.9  
sat

立田山憩の森・お祭り広場公衆トイレ

## 焼杉ワークショップ

開催場所 | 熊本県林業研究・研修センター



炭化させた杉板を公衆トイレの外装材に！  
伝統的な方法で「焼杉」を手作りする。

2020年から継続している立田山の公衆トイレプロジェクト。過去のワークショップで、柱の一部として使う木材を立田山の広葉樹から剪定・伐採しており、現在は建方がある程度進んでいる状態だ。今回は外装材として利用する杉板材を焼き、表面を炭化させる「焼杉」のワークショップを開催。熊本県立大学と鹿児島大学の学生、株式会社ウッドファームの社員が参加した。設計者からプロジェクトの概要説明と、焼杉のレクチャーが行われ、梁組中の現場で焼杉が使われる箇所も見学。その後、3名1組、6チームに分かれ、伝統的な方法「三角焼き」で焼杉を実施した。各チームとも初回こそ着火や焼き具合の調節に苦戦していたものの、回数を重ねるごとにコツをつかみ、2時間半ほどで長さ3mの背板材110本を炭化させた。完成した焼杉は立田山の公衆トイレへ運ばれ、施工される。



## 設計者 Comment



【意匠】株式会社山下設計 坂本 達典氏

焼杉は、私自身もずっと経験したかった伝統的な方法の一つなので、参加者の皆さんと一緒に楽しく取り組みました。機械化が進む現代であえて手作業で外装材を作ることは「新しい体験」ではないでしょうか。焼杉の外壁は、自然豊かな公園と建物をゆるやかに大きく大切な役割を果たしてくれるはずです。



【構造】株式会社山下設計 曾根 拓也氏

外壁には、雨水に耐えうる材質が求められます。一般的に木材を使う場合は薬剤を加圧注入して腐食対策を施しますが、今回はあえて手間のかかる焼杉を選びました。焼杉は海外からも注目されている古くて新しい技術です。安価な杉材でも炭化させることで耐久性が増し、50年ほど持つと言われてます。

## 参加者 Comment

熊本県立大学1年 近藤 美月さん



建物を設計された方や建築に携わる方と一緒に焼杉を作ることができ、とても貴重な体験でした。私の夢は設計士になること。勉強へのモチベーションもアップしました！

鹿児島大学3年 碓野 匠さん



焼杉の体験だけでなく梁組中の現場や試験倉庫も見学でき、大学の講義で学んできたことが線でつながりました。木の魅力と可能性を改めて知るいい機会になりました。

熊本県立大学2年 林田 望希さん



教科書で学んだ焼杉を実際に体験できて嬉しかったし、火が木に与える変化に驚きました。手作りした材料が立田山の公衆トイレに使われると思うと完成が待ち遠しいです。

架構自体が美しい、新しい木造空間

## 株式会社エバーフィールド 木材加工場



平成28年(2016年)熊本地震、令和2年(2020年)7月豪雨の際、木造仮設住宅や木造集会所施設「みんなの家」等の建設に携わった株式会社エバーフィールドが、災害時に住まいの再建の原動力となる木造建築産業のさらなる活性化、木造建築の担い手である大工の育成・技術力の向上を目的として木材加工場の整備を計画し、令和4年(2022年)に基礎工事に着手した。

公募型プロポーザルで選定された「小川次郎/アトリエ・シムサ+kaa」は、施主・施工者である株式会社エバーフィールドと意見を交し合い、フィードバックしながら技術を共有し、設計者曰く、建築として正しい姿を実現しながら進めている。設計を進めていく中で、施工上の課題を確認するため、また実際に施工した大工の意見を設計に反映するため、木材加工場の「モックアップを兼ねたゲート」が先行して施工された。

また、木材加工場の工事着手前にも木材の製材工場において、3Dデータでの構造解析、高性能なプレカット、そして大工の技術の組み合わせをモックアップで確認しながら、新しい木造空間に挑んでいる。

### 事業概要

計画条件: 木造 平屋  
延べ面積: 600㎡程度・20mスパンの大空間  
設計者: 小川次郎/アトリエ・シムサ+kaa  
建築主: 株式会社エバーフィールド  
建設地: 上益城郡甲佐町大字府領地内

### CHECK!

2020年11月に開催されたモックアップ現場見学会の動画を公開しています。



公募型プロポーザル

## 湯浦地区 地域優良賃貸住宅



地域優良賃貸住宅の整備予定地と  
芦北町湯浦地区のまち並み

くまもとアートポリス116番目のプロジェクトとして、「湯浦地区地域優良賃貸住宅」の公募型プロポーザルを実施している。本プロジェクトは、令和2年7月豪雨で大きな被害を受けた芦北町が、被災された町民の方をはじめ、移住希望者などが、安全・安心を実感できる住環境を整備し、次世代に繋いでいく、「創造的復興」の象徴となるような魅力ある施設として地域優良賃貸住宅を整備するものである。令和4年4月20日に公開審査を行い、設計者が決定する予定。

### CHECK!

プロポーザルや公開審査に関する情報を公開しています。



熊本地震 震災ミュージアム

## 素材や色を探るリサーチワークショップ

開催場所 | 熊本県庁、被災8市町村

WS  
2021.12.11 sat  
2021.12.18 sat



被災地域の土地と人の記憶を継承する  
体験・展示施設につなげるワークショップ。



熊本地震の記憶を遺し、学ぶ回廊型のフィールドミュージアム、熊本地震震災ミュージアム。その中核拠点となる体験・展示施設が、現在阿蘇地域に新設に向けて準備されている。

現在、公募型プロポーザルによって選定された「o+h・産紡設計JV」が、自然に呼応する建築と展示の計画を進めており、この建築物の建物サイン計画や空間の色彩計画などに反映させるためのワークショップ

が熊本県内の建築について学ぶ学生向けに開催された。ワークショップには、大学、専門学生の17名が参加。設計者である大西麻貴氏、百田有希氏を講師に迎え、県とともに震災ミュージアムの整備を進める8市町村(熊本市、宇土市、宇城市、御船町、益城町、西原村、南阿蘇村、大津町)を対象に、4班に分かれて復興に携わった方へのヒアリングや、それぞれの地域の特徴的な風景や素材・色などをリサーチした。その調査

結果を踏まえて、各班による発表とディスカッションが県庁会議室で開催された。発表では、それぞれの地域で採取された色に加え、その地域の特色、震災から地域一丸で取り組み、コミュニティのあり方や活動について、話題は多岐に渡った。グループワークでのリサーチ、現地調査によって、多様な視点で色や素材の考え方が議論され、今回のワークショップで得られた資料は、今後設計の中に反映される予定だ。

### 設計者 Comment

o+h 大西麻貴氏 百田有希氏



災害というのが豊かな自然の恵みともあるものだと再認識し、この建築で災害と豊かな自然が隣り合わせにあるものだと伝えていきたいと感じました。今回のワークショップで地域と自然の関わりが浮かび上がってきたことが大きな収穫。複数の地域をエリア分けすることで多様な視点からのリサーチができたので、一人だったら気付かない学びがありました。

### 参加者 Comment

高専5年生 菊川 翔登さん



今回のワークショップで、普段住んでいる町を、いつもは見えない角度で見たり、いろんな人の声を聞いて、新たな発見につながりました。今後の建築に取り組み際の視点として活かせると思います。

大学3年生 小田 拓生さん



グループで活動することで自分だけでは至らなかった視点や考え方で地域を見ることができた貴重な体験でした。被災した地域を見て回ったことで、熊本地震がとても大きなことだと改めて実感しました。

専門学校1年生 山崎 貴大さん



被災した当時は、西原村に建て替えるボランティアに参加したことがあります。今回のワークショップでは、建築家さんと一緒にリサーチを体験でき、建築の勉強をもっと頑張ろうと感じました。

大学3年生 今村 仔輝さん



建築士や、公務員の方々、他大学の学生と一緒に活動することで、机上では得られない学びがあり、大きな刺激になりました。地域に足を入れ、人々の助け合いが大きいことに発見がありました。

## KASEIプロジェクト 九州建築学生仮設住宅環境改善プロジェクト

山江村で既設ゴミ置き場への屋根の取付や家具の制作を行いました。



九州山口の建築系大学の学生や教員が参加し、仮設住宅等の住環境改善に取り組むKASEIプロジェクト。

4月に九州大学が、山江村中央グラウンド仮設団地にて既設ゴミ置き場への屋根の取り付けを実施。「業者の方が中に入ってゴミの回収を行えるような高さで屋根がほしい」という要望を受け、訪問前にプランを考え当日材料の調達をして制作した。



7月に6大学(九州大学、福岡大学、佐賀大学、熊本大学、崇城大学、熊本県立大学)が、山江村中央グラウンド仮設にて住民の方の意見を聞きながら家具の制作を行った。角をやすりで削り、安心して使用してもらえるように配慮した。

とにかく広いプラットフォーム

## 南阿蘇鉄道高森駅周辺再開発



南阿蘇鉄道の全線復旧を見据え、高森駅の建て替えや駅周辺の再開発を行う112番目のくまもとアートポリスプロジェクト。令和3年度(2021年度)は土木、排水等工事に着手し、令和4年度(2022年度)からは新駅舎工事に着手する。

新駅舎工事に先立ち、このプロジェクトの特徴でもある3次元相持ち構造の施工方法等を確認するため、モックアップを製作した。また、製作したモックアップを活用し、高森町の中学生を対象としたワークショップも開催された。3次元相持ち構造は庇や回廊部に用いられ、回廊の一部には高森町の南郷檜を活用する。プロポーザルで提案された「とにかく広いプラットフォーム」も含め、ここにしかない風景を創出し、熊本地震からの創造的復興のシンボルとなるよう工事が進められている。

### 事業概要

構造・階数：木造・地上2階  
 延べ面積：新駅舎 500㎡程度  
 防災交流棟 300㎡程度  
 設計者：太田浩史/株式会社ヌーブ  
 建築主：高森町

令和2年7月豪雨

## 被災した公民館を再建する「みんなの家」



令和2年7月豪雨で被災した公民館に替わる「みんなの家」整備について、日本財団の支援を受け、くまもとアートポリスプロジェクトとして行っている。人吉市の4棟については「乾久美子/乾久美子建築設計事務所」、八代市の2棟については「柳澤潤/コンテンポラリーズ」が設計者として選定された。

先行している地区では、地区住民と設計者との意見交換会が行われた。「みんなの家」が憩いの場として、コミュニティ再生の場として、自然災害への対応の場として、創造的復興を語り合う場として活用できるよう、つかう人(利用者)とつくる人(設計者・施工者)が、みんなでかんがえ、みんなで作るプロジェクトが進められている。

### 事業概要

人吉市のみんなの家  
 設計者：乾久美子/乾久美子建築設計事務所  
 八代市のみんなの家  
 設計者：柳澤潤/コンテンポラリーズ  
 事業主体：一般財団法人熊本県建築住宅センター  
 協働事業者・資金助成：日本財団  
 事業協力：一般社団法人KKN熊本工務店ネットワーク

## 第25回 くまもとアートポリス推進賞受賞作品決定!

くまもとアートポリス事業の一環として、建築文化に対する関心を高めるために行っている本賞。平成7年から始まり、これまでに165件の作品を表彰してきた。今年度は、令和2年7月豪雨により昨年の開催を見送ったこともあり、2年ぶりの開催となった。

今回は、42件の応募作品があり、熊本地震からの創造的復興に繋がるものも、ひとや環境に配慮したもの、地域づくりに寄与しているものなど多数あった。その中で、書類選考により10作品を選出し、現地審査・最終選考を行い、くまもとアートポリス推進賞5件、くまもとアートポリス推進賞選賞5件を決定し表彰を行った。



### くまもとアートポリス推進賞



下江津の家



そらいろ保育園



PLAY FARM・ツリーハウス

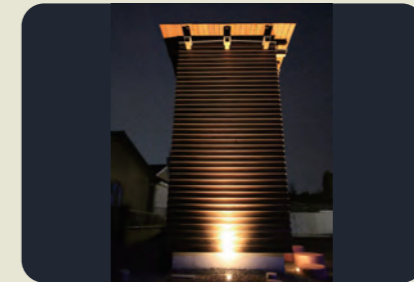


HIKE (ハイク)



八代市民俗伝統芸能伝承館 (お祭りでんでん館)

### くまもとアートポリス推進賞選賞



益城町の事務所



切妻と土間の家



松橋の家



南阿蘇村買取型災害公営住宅 長陽西部・下西原第2団地



地獄温泉 清風荘